



# 翠風

名古屋市立霞翠小学校  
学校便り (みどりのかぜ)  
平成 28 年 8 月 19 日  
No. 10 文責：豊島

学校教育目標：夢やあこがれを抱き、志の実現に向けて努力する霞翠っ子の育成

## 71回目のいのり ... 長崎原爆の日 (平和集会)

71年前の8月9日11時2分、長崎市松山町の上空で1発の原子爆弾が炸裂しました。それにより、約7万4千人の尊い命が失われました。長崎県内の学校では、犠牲となられた人々の御冥福を祈るとともに、恒久の平和を願い、平和集会を行っています。

本校では、例年、二部構成で行っています。

一部は、発達の段階に合わせて、**低学年は、図書ボランティア「ゆめたまぐみ」さんによる「かわいそうなぞう」の読み語り**を、**高学年は、「かやのがみた夏」のアニメーション**を視聴しました。かやのとは、自身も白血病の病魔と闘いながら、病床に伏すまで被爆者の救護活動に当たった永井隆博士の娘、永井茅乃さんのことです。その後、**学級に戻り、一人一人感想を持ちました。**

二部は、全校での集会です。まず、私が、話をしました。原爆で亡くなった自分の弟を背中に負い、火葬場で弟の順番を待っている10歳の少年の気持ちに触れながら、このようなことが二度とないように、**①争いをしないこと ②語りつがなければいけないこと**を伝えました。

次は、6年生が、長崎での**平和学習で学んだことをスライドを交えながら伝えました。**6年生の発表の後は、たくさんの子どもたちが感想を述べ合いました。

そして、平和宣言を行い、「青い空は」を歌い、最後に黙祷を捧げて集会を終わりました。



原爆資料パネルでの学び

読み語りに聞き入る低学年

ゆめたまぐみさんの熱弁

アニメに見入る高学年

献鶴を誓う5年生

6年生の平和学習の発表

下述が今年度の霞翠小平和宣言（抜粋）です。

### 霞翠小平和宣言（抜粋）

戦争はいやです。  
もう 戦争は たくさんです。  
平和な世界を つくるために  
わたしたちが できることは

一年生

「けんかをしないで みんなとなかよく  
すごします。」

二年生

「だれかが苦しんでいたら、みんなで助け合います。」

三年生

「相手の気持ちを考え、みんなで助け合います。」

四年生

「食べ物がある 家族といっしょにいられる 命の  
心配をしなくていい この幸せをずっと大切にしま  
す。」

五年生

「クラスも世界も平和がいい。みんなが笑顔であるよ  
うに もっともっと友だちのいい所を見つけます。」

六年生

「戦争はしてはいけません。平和を守り、つなげていこ  
うと伝えられる人になります。」

戦争の歴史は 私たちに 語りかけます。

戦争の苦しみを 平和の大切さを 命の尊さを

だから みんなで誓いましょう。

二度と戦争を起こさないことを。

世界のすべての人々が 笑顔になる日が来ることを。



また、**田上長崎市長**は、今年度の**長崎平和宣言**の中で、次のように述べました。

「被爆から71年がたち、**被爆者の平均年齢は80歳を越えました**。世界が「**被爆者のいない時代**」を迎える日が少しずつ近づいています。**戦争、そして戦争が生んだ被爆の体験をどう受け継いでいくかが、今、問われています**。若い世代の皆さん、あなたたちが**当たり前と感じる日常**、例えば、お母さんの優しい手、お父さんの温かいまなざし、友だちとの会話、好きな人の笑顔…。その**すべてを奪い去ってしまうのが戦争**です。戦争体験、被爆者の体験に、ぜひ一度耳を傾けてみてください。**つらい経験を語ることは苦しいこと**です。それでも語ってくれるのは、未来の人たちを守りたいからだということを知ってください。長崎では、被爆者に代わって子どもや孫の世代が体験を語り伝える活動が始まっています。焼け残った城山小学校の校舎などを国の史跡として後世に残す活動も進んでいます。**若い世代の皆さん、未来のために、過去に向き合う一歩を踏み出してみませんか。**」と。（一部抜粋）

私たち、**親世代も被爆の体験のない世代として、教え子へ、そして我が子へしっかりと語り継いでいこう**ではありませんか！

### 校長室の窓から ……【共汗、共感、共歓で育つ子どもの心と親子の絆】

休みの日に、本校の校庭で、親子でランニングをしたり、キャッチボールをしたりしていらっしやる家族の姿を目にすることがよくあります。そこには、**笑顔があり、語らいがありと実にほほえましい風景**です。しかし、最近は家庭の中でも**個別化、いや孤別化**と表現した方がいいのでしょうか？一緒にいてもそれぞれが別のことをしているという姿がよく見られると聞きます。

つい先日、公共交通機関の中で、1時間ほど、4人の親子連れが各々タブレット端末に向かい、一言も会話を交わさず、時間を費やしている光景を目にしました。「今することでもないのになあ、折角の共有の時間がもったいないなあ。」と感じた次第です。

今、親も子どももいろいろな意味で忙しくなっています。共有の時間が見出しにくくなっています。だからこそ、**少ない共有できる時間を、共に汗し、感じ、歓び合うことが重要**になってくるのではないのでしょうか。そこで、**子どもの心が育ち、親子の絆が深まる**のです。

この夏休み、それぞれの御家庭で**共有の時間が構築されていることを期待**しています。

